

1 題材 笑顔と優しさでつながろう

2 目標

見る人の心に響くハッピーフォトを作ることができる。

3 活用したICT

デジタルカメラ、コンピュータ

4 活用したICTの特性

- ・ 子どもが考えた言葉に合った風景を、誰でも手軽に短時間で用意することができる。(デジタルカメラ)
- ・ 写真を加工することで、より自分の思いをこめて表現することができる。(コンピュータ)
- ・ 文字と写真のレイアウトや文字の色、大きさなどをいろいろと試しながら自由に決めることができる。(コンピュータ)



【資料①】 ハッピーフォトを作る児童

5 実践の様子

- ① 「言われたらうれしくなる言葉」を考え、どのような写真を付けると、より見る人の心に響くかを考えた。
- ② 作成に当たっては、著作権と肖像権に気を付ける必要があることを確認した。
- ③ デジタルカメラを使い、校内で写真を撮影した。
- ④ コンピュータを使って、必要に応じて写真を加工し、文字と写真を合成した。【資料①】そして、出来上がったハッピーフォトを印刷した。【資料②】
- ⑤ ハッピーフォトを見せ合い、感想を伝え合った。【資料③】
- ⑥ ハッピーフォトを教室内の好きな場所に掲示した。



【資料②】 完成したハッピーフォト

6 成果と課題

- どのような写真を撮るかを考える活動を通して、言葉について考えることができた。
- デジタルカメラとコンピュータを活用することで、短時間でより効果的に自分の思いを表現することができた。また、作業の手軽さが児童の意欲を喚起し、絵や文字をかくのが苦手な子でも「また作りたい」という思いをもつことができた。
- 不必要な写真加工をする児童がいた。写真加工についても、見る人の心に響くよう効果的に活用できるようにしていきたい。



【資料③】 鑑賞する児童